

令和7年度都道府県医師会 組織強化担当役員連絡協議会



常任理事 玉城 研太郎

令和7年度都道府県医師会 組織強化担当役員連絡協議会

日時：令和7年10月8日（水）
午後2時～4時
場所：日医会館5階501・502会議室
（WEB会議）

司会：日本医師会常任理事 城守 国斗

一次 第一

1. 開 会

2. 会長挨拶 日本医師会会長 松本 吉郎

3. 議 事

テーマ：「継続的な組織強化に向けて」

- (1) 継続的な組織強化に向けて
日本医師会常任理事 城守 国斗
- (2) MAMISの活用を通じた組織強化
日本医師会常任理事 笹本 洋一
- (3) 都道府県医師会からの活動報告
①神奈川県 ②静岡県 ③宮崎県

4. 協 議

5. 閉 会

去る10月8日（水）WEB形式（日本医師会館より配信）にて開催された標記協議会について報告する。

1. 開会

日本医師会の城守常任理事より開会が宣言された。

2. 会長挨拶

日本医師会会長 松本吉郎

昨年12月1日の日本医師会会員数調査では、前年に比べて1,450名の会員が増加し、会員数は過去最高を更新し続けている。一方で、組織率は約51.2%にとどまっており、現状を維持

するためには毎年少なくとも2,000名、組織率を上昇させるためには2,500名の新規会員が必要である。

日本医師会の組織の眼目は、医療現場に根差した提言を医療政策の決定プロセスに反映していく中で、医師の診療生活を支援し、国民の健康と生命を守ることである。

現在の政治状況は、自民党の総裁が決まり、新総理が誕生し組閣がなされるが、各候補が公定価格の引き上げや物価高騰、賃金上昇への対応を検討しているものの、財務省の抵抗は強く、令和7年度の補正予算や令和8年度の診療報酬改定の財源確保は非常に厳しい状況である。そのため、会員数を増やし、質を高め、医療現場の声を中央に届けることが重要である。

本日は、神奈川県、静岡県、宮崎県の各医師会からの活動報告を拝聴し、組織強化の重要性を認識したい。医療現場の声を政策に反映させ、しかるべき財源を確保するために、参加者と共に取り組んでいくので、組織強化に向けて特段のお力添えをお願いしたい。

3. 議事

テーマ：「継続的な組織強化に向けて」

(1) 継続的な組織強化に向けて

日本医師会常任理事 城守国斗

日本医師会は、継続的な組織強化に向けて、医療政策における自らの役割を明確に位置づけている。政府に対して医療政策を要請する最も代表的な窓口として、医療現場の声を政策に反映させることを最重要課題としている。

組織率を高めることで、医師会の発言力と影響力を強化しようと戦略的に取り組んでいる。

勤務医部会連絡協議会や各種委員会を通じて、現場の医師たちの多様な意見を積極的に収集し、政策立案に反映させる仕組みを構築している。

医療政策実現のプロセスにおいて、政府の規制推進会議や経済財政諮問会議の影響を受けながらも、厚生労働省や国会における法改正の各段階で、医療現場の声を反映させるべく精力的に活動している。

年間 2,000 人以上の新規会員獲得を目標に掲げ、未加入の 3.3 万人の医師へのアプローチに注力している。臨床研修医に対しては、マッチングホームページなどを活用して、積極的に勧誘活動を展開している。

若手医師に対しては、ネットワーク拡大、仲間づくり、意見発信の場の提供、医師賠償責任保険の優遇など、具体的なメリットを示すことで入会を促進している。会費減免制度を拡大し、卒後 5 年間に加えて臨床研修期間中の医師の経済的負担を軽減することで、入会障壁を下げる取り組みを行っている。

組織率 50% の維持を重要な目標とし、医師の総意を代表する団体としての正当性を追求している。単なる職能団体ではなく、医療政策に実質的な影響を与える組織として、自らの役割を明確に定義している。

(2) MAMIS の活用を通じた組織強化

日本医師会常任理事 笹本洋一

MAMIS は、昨年 10 月末に会員管理機能を公開し、約 1 年が経過した。従来の複写式や届け出用紙を廃止し、手続きの一本化を進めている。都道府県医師会と郡市区医師会の尽力により、移行が順調に進んでおり、現在は例年にないスピードで会員の入会や異動の状況を把握できるようになっている。本年 10 月 2 日時点の会員数は、17 万 8,484 人となった。12 月 1 日の会員数調査では、18 万人の目標を挙げている。

MAMIS の基本的な考え方は、4 つの柱で構成されている。第一に、医師会業務のデジタルトランスフォーメーション (DX) 化を推進し、事務局の負担を軽減する。第二に、会員の負担

を軽減するため、諸手続きの簡素化とウェブ手続きの浸透を図る。第三に、会員の定着率と組織率の向上を目指し、特に異動する医師の医師会への残留を重視する。第四に、会員情報管理の標準化を実現し、将来の強い医師会組織の基盤づくりを目指すことである。

会員は、インターネットに接続できる環境であれば、パソコンやスマートフォンからいつでもどこからでも手続きを行うことができる。登録情報の確認、日医生涯教育制度の受講実績確認、修了書の出力、認定産業医や認定健康スポーツ医の資格確認が可能である。将来的には、医師賠償特約保険や医師年金の加入状況も確認できるようになる予定となっている。

MAMIS の公開以降、多くの医師会や事務局から期待や改善要望が寄せられており、日本医師会は、システムの品質向上と登録情報の精度向上に取り組んでいる。研修管理機能では、これまで各医師会に問い合わせていた研修会の受講履歴確認や証明書発行が可能となっている。

認定産業医の単位取得については、紙の単位シールの配布を廃止し、MAMIS 内でデータを管理することとしている。今後 5 年程度かけて、完全にデジタル化に移行する計画である。また、かかりつけ医機能報告制度の申請も MAMIS から受け付けており、地域連携による役割分担と効率化を支援している。

医師会事務局にとっても、MAMIS は将来的に大きなメリットをもたらす。3 層構造での情報共有、データ精度の向上、情報の集中管理により、災害にも強い組織体制づくりに貢献していく。さらに、MAMIS を情報発信ツールとしても活用し、日医だよりや日医ニュース、各種アンケートなどを会員に届けることを計画している。

最終的に、MAMIS は会員情報管理の標準化を目指し、強い医師会組織を支える重要なツールとして位置づけられている。

(3) 都道府県医師会からの活動報告

①神奈川県

神奈川県は、人口10万人当たりの医師数が全国40位、看護師は47位と、医療人材が非常に少ない県である。現在の医師会員数は9,965人で、まもなく1万人に達する。開業医の加入率は8割と高い一方、勤務医の加入率は3分の1程度にとどまっており、全体の加入率は48.4%となっている。

組織強化の戦略として、組織力の強化と組織率の向上の2つのアプローチを重視している。従来の活動に加えて、未来医師会ビジョン委員会や臨床研修病院合同説明会などを通じて、特に若手医師へのアプローチを強化している。

若手医師へのヒアリングから、会費のコストパフォーマンスや時間的拘束に対する懸念が明らかになっている。興味深いことに、投票権よりも会費の引き下げを望む声が多いことがあげられる。一方で、医師会の事業理解や地域医療への貢献を求める声もあり、世代間の認識の違いを認識している。

入会促進の長期的な目標は、勤務医が自走し、自ら発信していく組織づくりである。ただし、単に会費を無料にするだけでなく、既存会員へのサービス充実も同様に重要視している。医師のライフステージによって、求めるサポートや興味が異なることを踏まえ、きめ細かなアプローチを心がけている。

具体的な取り組みとして、広報活動の強化に注力しており、医師会の活動紹介動画の作成やブランディングプロモーション、地域の医師会への資金的支援、直接的な病院訪問による入会説明などを行っている。病院訪問では、アプローチから入会まで時間がかかることも率直に認め、改善の余地があると考えている。

組織強化の究極の目的は、すべての会員にとって安心して医療を提供できる環境を整えることである。若手女性勤務医の増加を歓迎し、彼ら彼女らが将来的に役員や代議員として活躍することを期待する。

組織強化は一部の担当者だけの仕事ではな

く、すべての会員が関与すべき課題である。各会員が周囲の医師1人を入会させれば、会員数は確実に増加する。

最終的に、現在50歳前後の会員が10年後、20年後も地域医療に貢献し続けるための世代交代と継承が、組織強化の最も重要な目的であり、医師会の未来は、若手医師の積極的な参画によって形作られる。

②静岡県

現在の会員数は4,724名で、そのうち郡市医師会のみに参加している医師は254名となっている。組織率は55.4%と全国平均をわずかに上回る状況であり、100%を目指している。

入会促進の戦略は多岐にわたる。まず、医師バンク事業を令和3年1月から運用開始し、県内の医療機関での勤務を希望する医師のマッチングを無料で行っている。令和7年8月末時点で、求人施設140件、求人数243、求職者149名を集め、17件のマッチングに成功している。

研修医に対するアプローチにも特に力を入れている。4月初旬に入会説明会を実施し、臨床研修病院と連携して入会を働きかけている。入会案内資料も刷新し、若手医師の目に留まりやすいデザインと表現を採用している。

女性医師支援も組織強化の重要な柱となっている。ロールモデル講演会やチャレンジシンポジウムを開催し、キャリア形成と働き方支援に取り組んでいる。医学部4年生に対しては、医師会長が直接講演を行い、早期から医師会活動への理解を深めている。

診療所の医業承継支援にも注力している。地域金融機関と協定を締結し、事業継続に関する調査を実施。現状と課題を分析し、具体的な支援策を検討している。また、開業医に対する資格取得支援や法律相談、福利厚生サービスも充実させている。

勤務医委員会では、働き方改革や地域医療構想に関する情報を積極的に発信し、会員のニーズに応えている。令和4年度と令和6年度には、組織強化担当役員連絡協議会を開催し、県内の

全医師会が同じ熱量で入会促進に取り組むよう働きかけている。

今後の課題として、以下の3点を重点的に取り組むとしている。

第一に、研修医・勤務医の入会促進、第二に、会員の入会継続支援、第三に、開業医の医師会加入促進である。特に、臨床研修医の異動に伴う入会継続支援に力を入れる方針である。

具体的な取り組みとして、臨床研修3年目および6年目の会員に対して、会員区分変更や会費減免期間終了について丁寧な案内を行っている。一部の郡市医師会では、病院事務局と連携し、会員区分変更の手続きを積極的に促進している。

日本医師会と足並みをそろえた組織づくりを目指し、静岡県医師会の組織強化に全力を尽くすこととしている。医師会の存在意義を理解し、地域医療の発展に貢献する組織を目指して、不断の努力を続けていく。

③宮崎県

宮崎県は地理的に「陸の孤島」と呼ばれ、医師数が少ない県である。県全体の医師数は3,000人未滿で、臨床研修医も定員113名のところ61名にとどまっている。このような厳しい状況から、県、行政、大学、医師会が一致団結して取り組んでいる。

医師会の会員数は約2,000人で、加入率は65%程度となっている。特徴的なのは、大学の副病院長が県医師会の常任理事として参画し、教授会と医師会のパイプ役を担っている。1県1大学という環境も、この連携を後押ししている。

組織強化の具体的な取り組みとして、令和6年7月に「組織強化・将来構想委員会」を設置した。この委員会は、医師会役員で構成され、組織強化と将来の課題を検討することに特化している。小委員会も設置し、機動力のある体制を構築している。臨床研修医への入会促進に注力し、説明会では医師会の存在意義や年会費の無料化などをアピールしている。今年度は61人中59人、96.7%から入会の承諾を得た。医学部5年生との交流会では、知事や医師会長

が直接学生と対話し、宮崎での医療への情熱を伝えている。

大学医局への説明会も重要な取り組みとなっており、各診療科の教授の許可を得て、ランチョン形式で医師会の説明を行っている。大塚先生自身、片道50分をかけて大学に通い、説明会を実施している。この熱意が大学の先生方に伝わり、好意的に受け入れられている。

学生と研修医へのアンケート調査も実施した。医療界の現状と医師会の活動を早期に理解してもらうことを目的とし、設問に工夫を凝らしている。回答率は低かったものの、学生の意見を今後の活動に生かすことを目指している。

組織強化のポイントは、「説明する側の医師会役員が、まず医師会のことを正しく知り、人に説明できる力を持つこと」である。説明会では、質問に対して抑揚をつけて答え、質問者との関係性を大切にしている。

今後の構想として、一般病院の院長へのアプローチや、若手・中堅医師による学生へのアプローチを計画している。また、若手医師の意見収集と活躍の場の設置も検討している。

組織強化とは「執行部の役員が自ら動き、情熱を持って対応し、理解者を増やし、諦めずに夢を見続けること」と考えている。厳しい医療環境の中で、医師会活動の必要性を信じ、組織強化に向けて邁進していく。

4. 協議

城守常任理事進行のもと、質疑応答形式で協議が進められた。

(東京都医師会)

美容系の皮膚科・整形外科医の医師会入会についてどのようにお考えか。

(日本医師会)

美容系の医師の入会については、医師会活動への参画と医師会の存在意義を丁寧に説明することが重要である。医師会の目的や意義を理解いただき、会費を納めていただければ、入会を歓迎する。

(東京都医師会)

美容系医師への医師賠償責任保険について、どのように説明すればよいか？

(日本医師会)

医師賠償責任保険は基本的に保険診療が対象で、美容整形は対象外となる。ただし、自由診療であっても、治療の安全性や日常診療で認められる範囲であれば、保険適用の可能性もある。

(沖縄県医師会)

山形県医師会が実施する医学生会員について日本医師会の見解を伺いたい。

(日本医師会)

山形県の医学生会員については、具体的な会員区分や詳細は把握していないが、大学での医師会の役割や意義を学生に伝えることは重要だと考えている。学生に対して、医師会の存在や役割を理解してもらう機会を多く設けることが大切であると考えている。

(沖縄県医師会)

本会では若手医師に自ら考えてもらう場を設置して組織強化の取り組みを進めている。また、視点を変え県民に寄り添うことで若手医師等の認識を高めていくことを考え、お笑い界との連携により県民に健康を訴えていくことを試みている。日本医師会は、医学生や若手医師の入会促進にどのように取り組んでいるか？

(日本医師会)

学生時代から医師会の役割を伝え、理解を深めることが重要である。社会保障の仕組みや医療制度について、わかりやすく説明する取り組みを進めている。国民に医療費の仕組みや社会保障の重要性を伝えることも、医師会の重要な役割の一つである。

(富山県医師会)

定款で三層（郡市区医師会、都道府県医師会、日本医師会）への自動入会に関しては、公立病院や民間病院でも運用が異なるなど様々な意見があり、定款変更で強制するのは難しいのではないかと考える。

(宮崎県医師会)

各都道府県の状況は異なるため、三層構造（市区町村、都道府県、日本医師会）の意義を丁寧に説明することが重要である。また、会費の考え方や各層の役割を明確に伝え、理解を得ることが入会促進につながると考える。

(日本医師会)

現在、10件ほどの都道府県で、県医師会に入会すると自動的に日本医師会にも入会する仕組みがある。今後、各県の状況を調査し、情報を共有したいと考えている。

5. 閉会

日本医師会の城守常任理事より閉会が宣言された。

印象記

常任理事 玉城 研太郎

日本医師会で開催された本会議の詳細は報告をご覧いただきたいと思います。今回あらためて感じたのは、“世代の垣根”や“開業医・勤務医の垣根”を越えて、真の意味での仲間づくりを進めていく必要があるということです。「組織強化」という言葉もありますが、私はあえて“仲間づくり”という言葉を使いたいと思います😊。なぜなら、医師会というのは本来、“人と人とのつながり”の上に成り立つ組織だからです。

医学部卒後5年目までの会費無料化は、確かに一定の効果を上げた施策でした。しかし、多くの若手医師からは今もなお、「医師会っていったい何をしているの?」「政治的な団体なのでは?」といった声を耳にします。これは、決して少数意見ではなく、多くの先生方が抱えている率直な疑問ではないでしょうか。「医師会に入る意味はあるのだろうか?」——その問いにどう応えていくのか。日本医師会からは「入会のメリットをもっと伝えてほしい」と言われますが、“何を、誰に、どのように伝えるのか”という点が実は最も難しいのです。

その中で、私は沖縄県医師会が他県と比べても非常に先進的であり、医療界の“仲間づくりモデル”として全国をリードしていると自負しています。昨年発足した沖縄県医師会若手チーム「Team F-Vision」は、まさにその象徴です。若手世代の意見を積極的に施策に反映し、若手同士が気軽に交流できるプラットフォームを整備しました。

さらに今後は、琉球大学医学部の学生を対象とした「学生会員」の発足に向けて準備を進めています。学生のうちから医師会活動を身近に感じ、社会と医療の接点を知っていただくことが狙いです。実際に、琉球大学では「医師会の社会における役割」と題して講義をさせていただいていますが、ここで痛感するのは“伝え方”の重要性です。「医師会とは三層構造で…」といった説明だけでは学生の心に響きません。聞く人の心を動かすには、情熱と熱量を込め、未来へのビジョンを語るからこそが大切です。——この部分は、私の得意分野でございます😊。

また、最近特に感じるのは、“診療報酬改定”ばかりを前面に打ち出してしまうと、どうしても医師会活動が国民の皆様へ冷たい印象を与えてしまうということです。これからの医師会に求められるのは、国民・県民の皆様へ寄り添い、信頼され、そして「医師会って頼もしい」と感じていただけるような姿です。そのためには、心に響く発信が必要不可欠です。

沖縄県医師会では、業界の垣根を越えた連携を積極的に進めています。最近では、沖縄を代表するお笑いグループFECの皆様と協力し、県民により近い形での情報発信を始めています。こうした新しい取り組みが、“県民に愛される医師会”の第一歩になると信じています。そしてその先にあるのが、真の意味での“組織力強化”です。すなわち、「沖縄県医師会に入って、一緒に活動してみたい!」——そう思ってもらえる仲間を増やすことです。

青天井の発想力と、青天井の行動力。この二つを武器に、私たちはこれからも仲間の輪をどんどん広げていきたいと思えます。今回の本会議に参加して、ふと思い描いたわたくしの印象記です。

お知らせ

講演会・例会のご案内



講演会・例会の開催については、沖縄県医師会ホームページ(左記QRコード)をご参照下さい。

※随時更新を行っております。